食虫植物 観察しようね

豊明の児童・高校生

豊明市沓掛町にある絶滅危惧種の食虫植物ナガバノイシモチソウの自生保護地で26日、地元の県立豊明高校の生徒と市立沓掛小学校の児童がいっしょに観察をした。

この植物は、高さが10～20㌢。熱帯起源で花から甘い匂いと粘液を出して虫を捕らえる。とくに、赤い花は全国的にもまれで、この保護地のものは県の指定天然記念物になっており、ふだんは人が入れない。

豊明高校は科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトで、昨年まで3年間、保護地で草刈りなどの保護活動や観察、遺伝子の分析などをしてきた。これを、地域活動として今後も続けようと、すぐそばの沓掛小に声を掛けて、共同観察が実現した。

保護地には他の草花も生えていて見つけにくく、児童らは保護地に縦横に渡された高さ50㌢ほどの「観察橋」に腹ばいになり、虫眼鏡を片手に高校生の指導で必死に探していた。豊明高校の鬼頭邦英教頭は「これを機に小学校との交流を広げたい」と話していた。

◇

毎年夏に花が咲くため、豊明市は日を決めて一般公開している。今年は8月4～6日と、9月1、2日に公開する。問い合わせは市教委生涯学習課（0562・92・8317）へ。